

# 第109期中間報告書

平成23年4月1日から平成23年9月30日まで



椿本興業株式会社

## 目次

ごあいさつ	1
事業部門の概要	2
財務情報（連結）	4
中間業績ハイライト（連結）	6
会社情報	7
株主メモ	9

# 人と技術の架け橋

人間には人間性を、機械には効率を

## 社是

吾々は社業を通じて、社会に貢献することをモットーとする。

吾々はその繁栄を常に怠りなき商品の開発と

たゆみなき販路の開拓によって達成させる。

## Mission Statement

### Our Mission

私達は、長年機械と技術の総合商社として培った技術力を生かし、最適商品のマネジメントにより、産業界の顧客に新たな価値を提供します。

### Our Vision

私達は、機械と技術の総合商社として、産業界の未来価値創造企業を目指します。

### Advanced Technology for Optimum Machinery

（最先端の技術で最適な機械をお客様に提供します）

### Our Concept

1. 私達は、社会に対する公正さを堅持し、地球環境の保全等社会の要請への積極的な対応により、企業の社会的責任を全うします。
2. 私達は、顧客への最適商品の供給を通じて、産業界の発展に寄与し、社会に貢献します。
3. 私達は、常に世界のトレンドと市場のニーズに目を向けて、先端技術商品を取り込み、新市場の開拓を行い、顧客とメーカーの信頼に応えます。
4. 私達は、情報力、技術力、提案力を常に練磨し、結集して、価値を創造し、企業価値を高めて株主の負託に応えます。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

ここに当企業グループ第109期中間期（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）の業績等につきましてご報告申し上げます。

当中間期の経済動向は、東日本大震災後のサプライチェーンの早期復旧と、中国を中心としたアジア諸国の高い成長に支えられ概ね順調に推移いたしました。しかしながら、長期化する円高・株安、原材料高、欧米経済の景気低迷等で先行き不透明な状況が続くものと思われま

す。このような状況のもと、当企業グループは、国内外における部門間の営業協調体制を強化し、積極的な営業展開をはかり、また、利益率の向上と営業費用の徹底した節減を行った結果、売上高は前年同期を上回り、営業利益・経常利益および純利益につきましても前年同期を大幅に上回ることができました。

通期につきましては上期と同様に先行き不透明な状況が続くと予想されますが、当企業グループ一丸となり、業績予想値の達成ならびに業績の向上に努めてまいり所存であります。

最後になりましたが、当社は平成23年10月1日をもちまして創業95周年を迎えることができました。ひとえに株主様をはじめとする関係各位のおかげによるものと深く感謝とお礼を申し上げます。引き続き、創業100周年にむかって邁進していく所存でありますので、株主の皆様には、今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成23年12月

取締役社長

椿本哲也

## 第109期中間期業績および通期業績予想（連結）

	当中間期		通期予想	
	金額（百万円）	前年同期比（%）	金額（百万円）	前年同期比（%）
売上高	38,505	107.9	81,000	109.3
営業利益	820	231.6	1,600	135.8
経常利益	900	210.0	1,800	139.4
純利益	341	339.9	700	121.9

# 事業部門の概要

## ■動伝事業部門（主要商品：伝動機器）

当事業部門は、株式会社椿本チエイングループのパワトラ商品を中心として、国内外の動力伝動商品の全般を取り扱っており、その売上高は全体の約53%を占めております。

当中間期は、売上高においては、東日本大震災後の部品供給体制の正常化で自動車関連分野が回復したものの、半導体業界を中心としたIT関連分野は景気回復には至らず、全体としては前年同期をやや下回りました。利益面においては、営業協調体制強化の成果もあり営業利益が大幅に上昇いたしました。当事業部門全体の売上高は、202億84百万円（前年同期比99.0%）となりました。

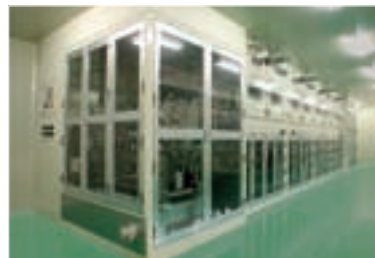


小型搬送チェーン

## ■設備装置事業部門（主要商品：輸送装置、一般機械）

当事業部門は、株式会社椿本チエイングループのマテハン商品、当社独自のエンジニアリングによるツバコーシステム商品を中心に、産業分野全般にわたり搬送設備等の自動化・省力化商品を提供しており、その売上高は全体の約36%を占めております。

当中間期は、震災復旧に向けた設備需要、アジア諸国を中心とした海外案件が増加し、エネルギー関連、環境関連、自動車関連、製紙関連分野等で受注高、売上高および営業利益が大幅に増加いたしました。このため、当事業部門全体の売上高は、138億92百万円（前年同期比123.4%）となりました。



製薬業界向け経皮吸収製剤生産設備

## ■産業資材事業部門（主要商品：産業資材）

当事業部門は、不織布製品をはじめ合成樹脂原料およびその成型加工品、カルマーポンプ、新素材商品等幅広い商品を取り扱っており、その売上高は全体の約11%を占めております。

当中間期は、従来商品の拡販と新規開発商品による積極的な営業展開の結果、国内外で業績を拡大することができ、当事業部門全体の売上高は、43億29百万円（前年同期比109.7%）となりました。

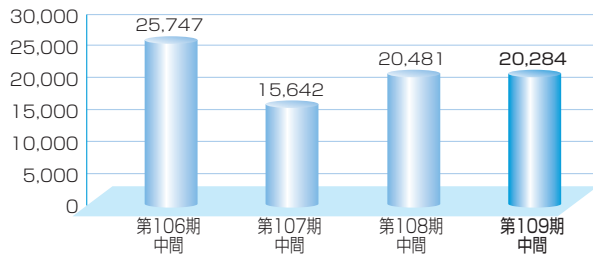


三角ティーバック用不織布&同製造機械

## ■ 動伝事業部門

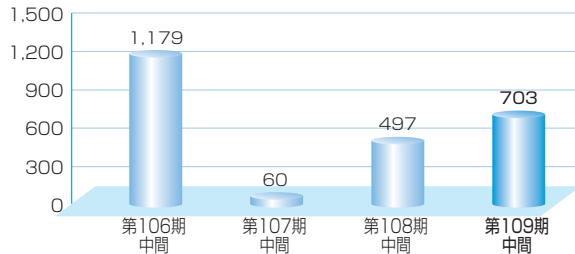
売上高の推移(連結)

(単位:百万円)



営業利益の推移(連結)

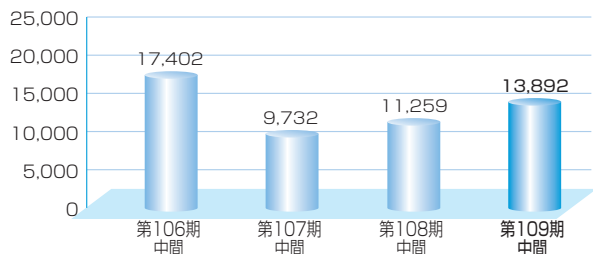
(単位:百万円)



## ■ 設備装置事業部門

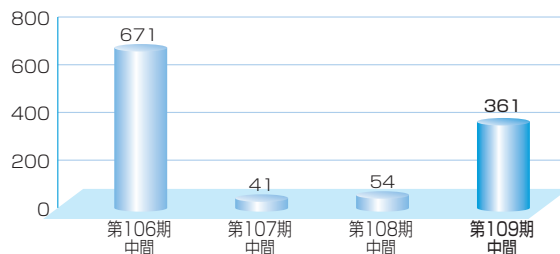
売上高の推移(連結)

(単位:百万円)



営業利益の推移(連結)

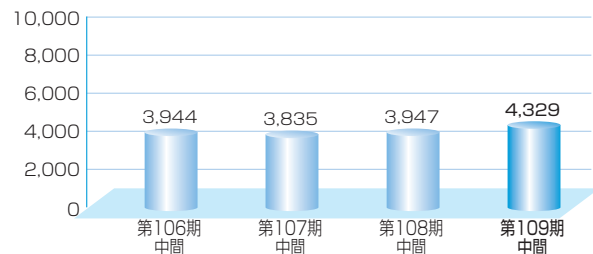
(単位:百万円)



## ■ 産業資材事業部門

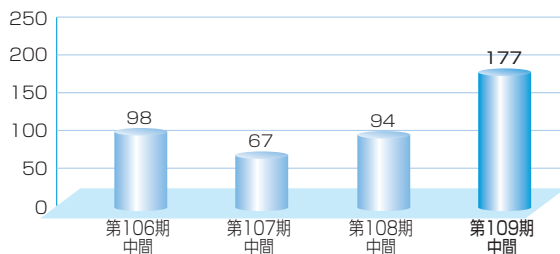
売上高の推移(連結)

(単位:百万円)



営業利益の推移(連結)

(単位:百万円)



# 財務情報（連結）

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成22年9月30日現在)	当中間期 (平成23年9月30日現在)	前 期 (平成23年3月31日現在)
<b>資 産 の 部</b>			
流 動 資 産	32,714	35,713	35,062
固 定 資 産	7,926	8,137	8,639
有形固定資産	551	602	571
無形固定資産	70	76	88
投資その他の資産	7,304	7,457	7,979
資 産 合 計	40,640	43,850	43,701
<b>負 債 の 部</b>			
流 動 負 債	28,121	28,469	28,084
固 定 負 債	1,727	3,696	3,790
負 債 合 計	29,849	32,165	31,874
<b>純 資 産 の 部</b>			
株 主 資 本	10,781	11,337	11,158
資 本 金	2,945	2,945	2,945
資 本 剰 余 金	1,805	1,805	1,805
利 益 剰 余 金	6,112	6,669	6,489
自 己 株 式	△82	△83	△82
その他の包括利益累計額	△62	258	596
その他有価証券評価差額金	△5	317	663
繰延ヘッジ損益	△0	9	0
為替換算調整勘定	△56	△68	△67
少数株主持分	72	88	72
純 資 産 合 計	10,791	11,685	11,827
負債純資産合計	40,640	43,850	43,701

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当中間期 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	前 期 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
売 上 高	35,688	38,505	74,101
売 上 原 価	31,178	33,276	64,537
売 上 総 利 益	4,510	5,229	9,563
販売費及び一般管理費	4,155	4,409	8,386
営 業 利 益	354	820	1,177
営 業 外 収 益	128	121	249
営 業 外 費 用	54	41	135
経 常 利 益	428	900	1,291
特 別 利 益	37	—	52
特 別 損 失	124	107	156
税金等調整前中間(当期)純利益	341	792	1,187
法人税、住民税及び事業税	241	358	651
法人税等調整額	△1	73	△41
少数株主損益調整前中間(当期)純利益	102	360	577
少 数 株 主 利 益	1	18	3
中間(当期)純利益	100	341	574

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期	当中間期	前 期
	(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	1,938	375	1,271
投資活動による キャッシュ・フロー	△143	△49	△210
財務活動による キャッシュ・フロー	△112	△163	△325
現金及び現金同等物に 係る換算差額 (△は減少)	△6	△8	△17
現金及び現金同等物の 増 減 額	1,675	154	718
現金及び現金同等物の 期 首 残 高	3,223	3,941	3,223
現金及び現金同等物の 中間期末(期末)残高	4,898	4,095	3,941

## 中間連結株主資本等変動計算書

(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

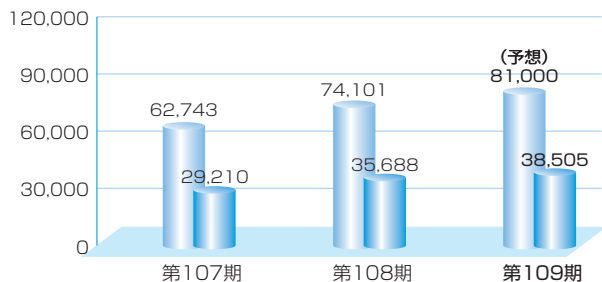
(単位：百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主 持 分	純資産 合 計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合 計	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	繰延ヘッジ 損 益	為替換算 調整勘定	そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額 合 計			
平成23年3月31日残高	2,945	1,805	6,489	△82	11,158	663	0	△67	596	72	11,827	
中間連結累計期間の変動額												
剰 余 金 の 配 当	—	—	△161	—	△161	—	—	—	—	—	△161	
中 間 純 利 益	—	—	341	—	341	—	—	—	—	—	341	
自 己 株 式 の 取 得	—	—	—	△0	△0	—	—	—	—	—	△0	
株主資本以外の項目の 中間連結累計期間の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△346	9	△0	△337	15	△322	
中間連結累計期間の変動額合計	—	—	180	△0	179	△346	9	△0	△337	15	△142	
平成23年9月30日残高	2,945	1,805	6,669	△83	11,337	317	9	△68	258	88	11,685	

# 中間業績ハイライト（連結）

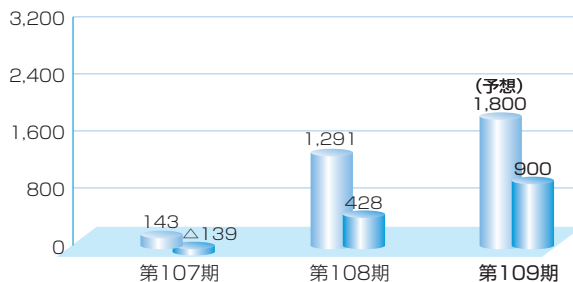
(売上高の推移)

■ 通期 ■ 中間 (単位:百万円)



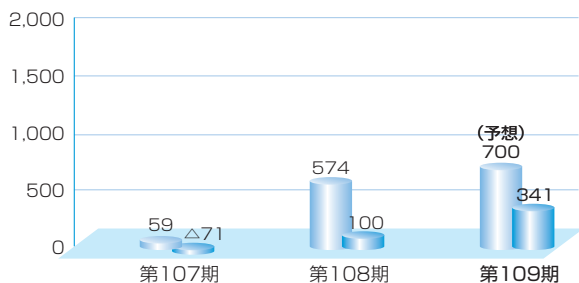
(経常利益または経常損失(△)の推移)

■ 通期 ■ 中間 (単位:百万円)



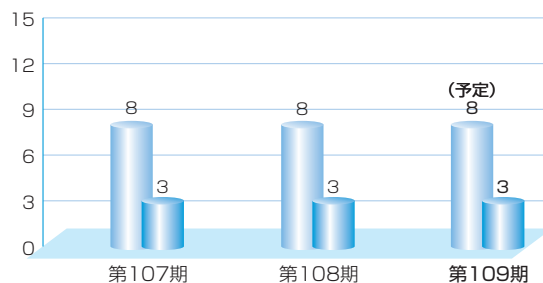
(純利益または純損失(△)の推移)

■ 通期 ■ 中間 (単位:百万円)



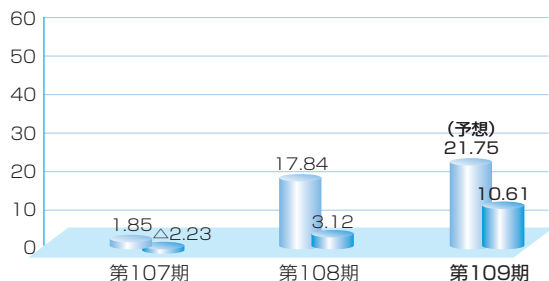
(配当金の推移)

■ 年間 ■ 中間 (単位:円/1株)



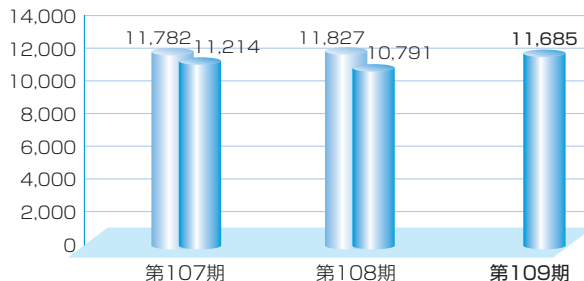
(1株当たり純利益または純損失(△)の推移)

■ 通期 ■ 中間 (単位:円)



(純資産の推移)

■ 通期 ■ 中間 (単位:百万円)





## 会社の概要

社名	椿本興業株式会社
創業	大正5年10月1日
設立	昭和13年1月10日
資本金	2,945,915,516円
従業員数	391人
営業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>● 各種機械器具およびその部分品ならびに付属品の販売業</li><li>● 各種運搬機械同付属品の販売ならびに運搬機械装置の設計、製作および販売業</li><li>● 上記に付帯する据付ならびに工事請負業</li><li>● 金属製品、化学製品、窯業製品、木材製品、繊維製品、油脂製品の販売業</li><li>● 土木建築工事の測量、設計、管理および請負業</li><li>● 不動産の売買、賃貸借、仲介および管理業</li><li>● 上記各営業内容に関する付帯事業</li></ul>

## 経営方針

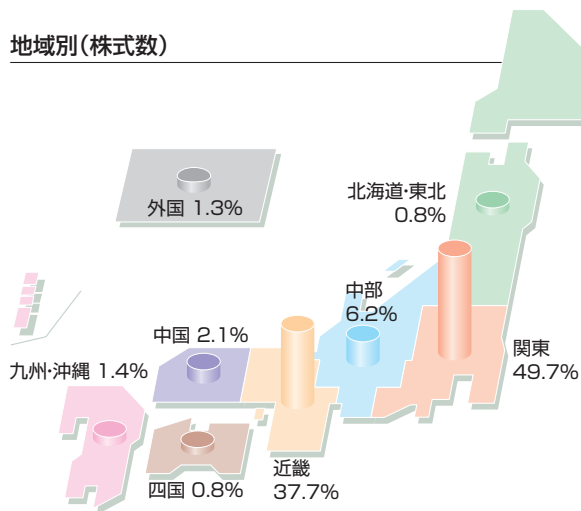
### 経営の基本方針

当企業グループは、「長年機械と技術の総合商社として培った技術力を生かし、最適商品のマネジメントにより、産業界の顧客に新たな価値を提供する」ことを経営の基本方針とし、商社としての幅広い商品供給力と、ハード・ソフトのシステム構築力を含む技術提案力をもって、顧客ニーズに合わせた最適なシステム・商品を選択し、コーディネートし、調達し、供給することを目指しております。

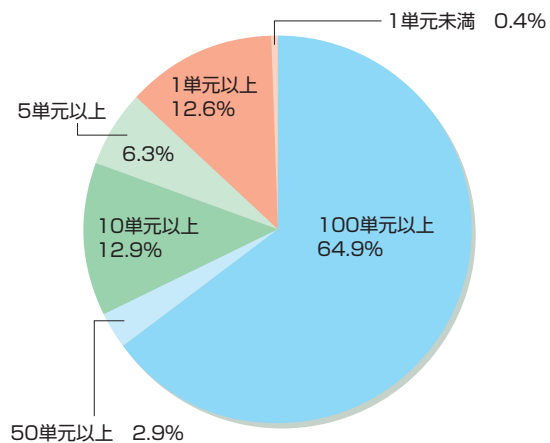
## 株式の分布状況

発行済株式総数 32,489,845株  
株主総数 4,319名

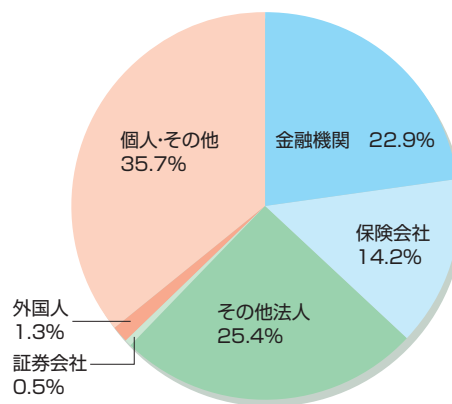
### 地域別(株式数)



### 所有数別(株式数)



### 所有者別(株式数)



## 株主メモ

- 事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日
- 定時株主総会** 毎年6月
- 定時株主総会基準日** 毎年3月31日  
(定時株主総会において権利を行使すべき株主の確定日)  
そのほか、必要ある場合は取締役会の決議によりあらかじめ公告いたします。
- 配当受領株主確定日**
- 期末配当** 毎年3月31日
- 中間配当** 毎年9月30日
- 単元株式数** 1,000株
- 上場取引所** 株式会社東京証券取引所 市場第1部  
株式会社大阪証券取引所 市場第1部
- 株主名簿管理人  
および特別口座管理機関** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱所** 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
**〔郵便物送付先〕** 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
**〔電話照会先〕** 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
- 同取次窓口** 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
- 公告の方法** 電子公告により公告いたします。  
(<http://www.tsubaki.co.jp/denshi.htm>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

~~~~~  
(お知らせ)

当社の株主名簿管理人および特別口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社は、関係当局の許認可を前提に、平成24年4月1日をもって、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、「三井住友信託銀行株式会社」となります。また日本証券代行株式会社による取次事務につきましては、平成24年3月末をもって終了させていただきます。

# お知らせ

## ●第109期中間配当について

第109期中間配当についてお知らせいたします。

- ・中間配当金 1株につき金 3円
- ・中間配当の効力発生日  
(支払開始日) 平成23年12月5日

## ●配当金受取方法のお取扱い

配当金振込口座のご指定方法に加えて、あらかじめ登録した一つの預金口座で株主様の保有しているすべての銘柄の配当金のお受取りや、証券会社の口座でも配当金のお受取りが可能です。確実に配当金をお受取りいただくためにも、これらの振込みによる配当金のお受取りをお勧めいたします。詳しくはお取引の証券会社等へお問合せください。

## ●「配当金計算書」について

配当金をお支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねており、株主様が確定申告を行う際の添付資料としてご使用いただくことが可能ですので大切に保管ください。なお、「株式数比例配分方式」により証券会社等で配当金をお受取りの株主様については、源泉徴収税額の計算等を証券会社等が行いますので、確定申告の際の添付資料についてはお取引の証券会社等へご確認ください。

## ●単元未満株式をご所有の株主様へ

当社は単元未満株式（1,000株未満の株式）の買取・買増請求制度を採用しております。単元未満株式の買取・買増請求のお手続きをご希望の株主様は、次の窓口までお申出ください。  
<お申出先>

- ・証券会社等の口座で単元未満株式をご所有の株主様 … お取引の証券会社等
- ・特別口座で単元未満株式をご所有の株主様 … 中央三井信託銀行株式会社



SINCE 1916

椿本興業株式會社

〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目3番20号（明治安田生命大阪梅田ビル）

TEL：06-4795-8800（代表）

<http://www.tsubaki.co.jp/>



この報告書は、環境に配慮し、  
植物油インキを使用しております。